

# 我が町の忘れられない歌と踊り

## 厚真音頭

温故知新

メロディを覚えている方は、歌ってみてください。わからない方も歌詞をじっくり読んでみてください!!

5 私しや軽舞 石油坑育ち  
寄れば燈ます胸の火もテモトツテモ  
よいとこ厚真は 情けどこ

1 月がチョット出て 米倉のぞく

お米十万石厚真米テモトツテモ  
よいとこ厚真は 米どころ

6 海は荒海 どんとくる波に

男度胸の花が咲くテモトツテモ  
よいとこ厚真は 男前

2 買った堆肥じや厚真米できない

肥料や汗だよ親ゆずりテモトツテモ  
よいとこ厚真は 稲のなみ

7 昔カムイが 皆寄って踊った

ここはチケッペ うたどころテモトツテモ  
よいとこ厚真は みな踊る

3 山にや三万町歩 楢山 小山

気と気合います雑木山テモトツテモ  
よいとこ厚真は 平和町

8 キビの畑のコーロギさえも

厚真よいよい よいとなくテモトツテモ  
よいとこ厚真は 住みよいな

4 頗美宇夕立 姨失時雨

間の谷間は紅紅葉テモトツテモ  
よいとこ厚真は 降っても照っても

9 萩の花から 月類出して

厚真踊りに 背のびするテモトツテモ  
よいとこ厚真は のびる町

### 厚真の情景が 目に浮かぶ歌詞

厚真音頭の歌詞は、米どころのマチ、おいしい米を作ろうという心意気、自然豊かな風景、にぎやかなマチの様子などが詠み込まれていて、目をつぶると郷土の情景が浮かんでくるように感じませんか。

また、どの歌詞にも「テモトツテモよいとこ厚真は」というフレーズが入っていて、厚真に住んでいる誇りと愛情を感じるとることができます。

### 昭和28年 厚真音頭誕生

厚真村史や厚真町史によると、民謡の宝庫といわれる東北、北陸からの移住者が多い厚真では、開拓当初から民謡は非常に豊富にうたわれていたといえます。

しかし、それらは独自のものでなく、今後郷土に根をおろし、生きていく芸能の発見と創造に一段と努力が必要であり、村ではそういう気持ちから、更科源蔵作詞・西村貞次郎作曲により、昭和二十

九年九月に厚真音頭が誕生しました。

### より親しまれるよう 厚真音頭に振り付け

町民により親しまれるようにと、厚真音頭をレコード化し、新たに踊りをつくつていこうという気運が高まっていきました。

昭和三十九年三月議会でレコード制作費と踊りの振り付け予算が可決。踊りの振り付けは、レコード会社専属の花柳秀恵以さんに依頼することになりました。

踊りのお披露目は、その年の八月二十日に開催予定の第一回町民体育祭に決定。急ピッチで準備が進められ、七月末にレコードと同



昭和39年9月1日発行の町報あつまに掲載された第1回町民体育祭での厚真音頭を踊るご婦人たちの写真

# 厚真音頭

作詞 更科源蔵  
作曲 西村貞次郎



昭和39年に作製されたレコード

## 三百人のご婦人が踊りをお披露目

町報あつまによると、第一回町

時に振り付けも出来上がりしました。お披露目に向けて、レコードは、職場・団体・学校などに配布され、踊りは、各地域の代表者が集まり、普及講習会が花柳先生の指導で、東京五輪音頭とともに行われました。

町報あつまによると、第一回町民体育祭は、絶好の体育日和の天気の中、町内十六自治会をはじめ、婦人会、青年団、学校などから約2千人が参加。和気あいあいの中で競技が進み、いよいよ浴衣姿のご婦人三百人による厚真音頭が披露。「待望の厚真音頭が演ぜられました、その優美さは実に本日の花で、集まった町民から拍手かつさいを受けた」と記載されています。

## それはそれは見事なものでした

渡邊美佐子さん（表町）

昔は婦人活動が盛んで、町民体育祭のお昼には色とりどりの浴衣を着た各地区のご婦人がたちが厚真音頭を踊っていましたね。私も昭和48年ころから新町婦人会に入り参加していたんですけど、多いときは、その輪が二重、三重にもなってそれはそれは見事なものでしたよ。

町民体育祭だけでなく、田舎まつりにも田舎まつり音頭と二本立て踊ったこと、小学校の運動会でも踊った記憶がありますね。厚真音頭は、舞台向きの踊りなのか、なかなか前に進まない踊りだったことや、田舎まつり音頭もはじめはあまり前に進まない踊りだったのですが、改良して前に進むようになってから、厚真音頭はだんだんと踊らなくなっていったんじゃないかと思いますね。

たまに当時踊っていたころのアルバムを開くととても懐かしい思いでいっぱいになります。踊りはなんとなく覚えています、きっとあのころ踊っていた婦人会のみなが集まったら完全に思い出すかもしれませんね。何かの機会に厚真音頭が復活してくれたらうれしいですね。



前列右が渡邊さん（第9回田舎まつり）

## 踊りは今でもはっきり覚えています

毛利智江子さん（京町）

厚真音頭の踊りを初めて町民にお披露目したのは、昭和39年8月20日に旧厚真中学校で行われた「第1回町民体育祭」の時でしたね。その年に東京オリンピックが行われるので、東京五輪音頭を踊った



あとに、各地区のご婦人約300人がグラウンドに輪をつくり厚真音頭を踊ったんですよ。東京五輪音頭の踊りは忘れたまじけど、厚真音頭の踊りははっきり覚えていますよ。

お披露目に向けて、児童会館で各地区の代表を集めて踊りの先生をお迎えして講習会が開かれたんです。教育委員会からの要請で、わからない踊りの個所がある地区に、私が出向いたこともありましたが、絶対に間違ったことは教えてはいけなないと思ひ死に覚えたことが、今でも踊りを覚えているんだと思います。

厚真音頭の踊りは、しなやかなところが特長で、踊りが好きな私にとって素晴らしい踊りだと思し、歌詞も好きですね。最後に踊ったのは20年以上も前の12月に行われるチャリティー演芸大会以来でしょうか。あのころが懐かしいですね。

私にとって厚真音頭は忘れなれない曲と踊りなので、どこかで残してほしいですね。